

市民団体協働事業のご案内

ノウハウや専門性のある市民団体と協働し、市の男女共同参画の推進と市民団体の活動の活性化を図るための事業です。

◆劇団 blue ジーンズ

事情を抱えた女性たちが自立に向かって生きていく物語の創作劇

「水から風の女たちの事情～ありふれた日常の一日より～」

- ①日 時：令和4年11月20日(日) 10:00～11:15
会 場：クロスパルにいがた(新潟市中央区礎町通3ノ町2086)
- ②日 時：令和4年11月27日(日) 10:00～11:15
会 場：内野まちづくりセンター(新潟市西区内野町413)
- ③日 時：令和4年12月4日(日) 10:00～11:15
会 場：横越地区公民館(新潟市江南区いぶき野1-1-2)

申 込：①～③不要(当日会場へお越しください)

◆ファザーリング・ジャパンにいがた

なかなか疲れがとれない! そんな頑張り屋のパパママへ

①「夫婦ふれあい整体教室」

講 師：剣持 太智さん(整体師/鍼灸師)
日 時：令和4年11月20日(日) 10:00～11:30
会 場：横越地区公民館(新潟市江南区いぶき野1-1-2)
対 象：夫婦10組(子育て中、出産予定のあるご夫婦)
締 切：11月13日(日) ※先着順
申 込：「ファザーリング・ジャパンにいがた」申込フォームより
保 育：先着8人(生後6カ月～未就学児) ※保育は11/6締切

①お申込みはこちらから



どうすれば子どもの「やる気」を引き出せる? お悩み中のパパママへ

②「わくわくエンジン®発見教室」

講 師：認定NPO法人キーパーソン21 チームにいがた
日 時：令和4年11月23日(水・祝) 9:45～11:45
会 場：新潟テルサ(新潟市中央区鐘木185-18)
対 象：夫婦と小学3年生以上の子ども10組
締 切：11月16日(水) ※先着順
申 込：「ファザーリング・ジャパンにいがた」申込フォームより

②お申込みはこちらから



◆わいわい夢工房

①「防災カフェ inにいがた～パッキング体験学習会～」

講 師：佐竹 直子さん(子育て防災支援士)
日 時：令和4年11月26日(土) 14:00～16:00
会 場：ゆいぽーと(新潟市中央区二葉町2-5932-7)
対 象：小学1年生以上16人(1・2年生は大人同伴、3年生以上は子どもだけで可)
参加費：500円 ※先着順

災害時はもちろん、普段の生活にも役立つ!

②「防災カフェ inにいがた～つくってあそぶ親子防災教室～」

講 師：乙川 千香さん(造形作家)
日 時：令和4年12月3日(土) 13:30～15:00
会 場：こども創造センター(新潟市中央区清五郎375-2)
対 象：親子8組(4歳以上～小学6年生まで) ※先着順

親子でランタンづくり♪

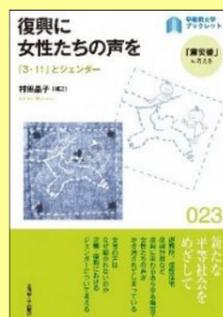
申 込：①②11月9日(水) 10:00より電話で
「わいわい夢工房」大橋さんへ TEL 080-6625-7393

防災に関する本をご紹介します



災害女性学をつくる
浅野 富美枝・天童 睦子/編著 生活思想社

災害女性学とは、防災・災害・復興のプロセスに女性の声を取り入れて様々な問題を解決し、女性だけでなく困難を抱える人たちにも目を向けてより良い社会づくりを考察する新たな学問です。男女共同参画の視点で考えることの重要性を痛感します。



復興に女性たちの声を「3・11」とジェンダー
早稲田大学ブックレット「震災後」に考える 023
村田 晶子/編著 早稲田大学出版部

東日本大震災で明らかになった女性の人権やジェンダーの問題について、有識者が様々な視点で論じています。災害時の女性たちは性別役割分業の負担が大きく、より弱い立場に置かれ復興の手が届きにくい。我慢を強いられ、言いたいことが言えなかった女性たちの声が伝わってきます。



女たちの避難所
垣谷 美雨/著 新潮社(新潮文庫)

絆を盾に段ボールの仕切りを使わない避難所。閉鎖的な男尊女卑の世界。3.11の避難所で起きた様々な問題やトラブルを題材とした震災小説です。女性たちの苦しみ、悲しみが胸をざわつかせ、改めて声をあげることの難しさについて考えさせられる一冊です。



最新版 女性のための防災BOOK
～“もしも”のときに、あなたを守ってくれる知恵とモノ～
an・an 特別編集 マガジンハウス

防災は必要だと思うものの、ちょっと億劫。何をすればよいか分からないという人が多いのではないのでしょうか? この本は今日からできること、使い慣れたものを使用するアイデアなどを集めています。また、災害時の行動マニュアルは、心の備えになります。



アルザにいがた情報図書室は、
新潟市立図書館のカードで貸出ができます。

開室時間：月曜～金曜 10:00～17:30
休室：土日及び祝休日、第1水曜、第4月曜、年末年始、蔵書点検期間



これからの 地域防災のために

～男女共同参画の視点から防災を考える～



2022年11月 vol.52

アルザにいがた

発行/新潟市男女共同参画推進センター「アルザにいがた」
新潟市中央区東万代町9-1 万代市民会館内
電話：025-246-7713 8:30～17:30 土日及び祝休日を除く
URL: <https://www.city.niigata.lg.jp/kurashi/danjo/alza/>
E-mail: alza@city.niigata.lg.jp

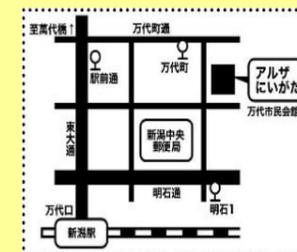
「アルザ」は、「志気を高める」、「高揚」という意味のスペイン語の「alza(アルサ)」が語源。開館5周年の公募で決定、センターが男女共同参画について意識を高める場であってほしいという願いが込められています。



アルザにいがた Twitter
講座情報や新着図書情報、職員が日常で感じたジェンダーに関することをつがやっています。コメントやいいね、お待ちしております♪



情報紙のご意見・ご感想をEメールでお寄せください。



これからの地域防災のために ～男女共同参画の視点から防災を考える～



活躍する女性をご紹介します②

今回は、防災・減災を生活者の視点で考える活動をしている「わいわい夢工房」代表の大橋宏子さんをご紹介します。

【PROFILE】



長岡市出身。県外で第一子出産後、新潟に移り住み、40年が経過。孤独な子育てで行き詰っていたところ、公民館で子連れで参加できるグループに入る。

元来、好奇心旺盛であったため、その後、様々な地域活動やボランティアをする中で、人と人が繋がっていく楽しさを知る。東区自治協議会委員を2年務める。

■「わいわい夢工房」を立ち上げたきっかけを教えてください。

東日本大震災が大きなきっかけです。当時は腰の手術をして歩くのがやっとの状態だったので、被災地どころか市内の避難所に行くこともできず、ただ悶々と過ごしていました。近所に母子避難所交流所ができたことをテレビで知り、そこで何かお手伝いできることはないかと考え、母親たちが用を足している間の子守りや片付けなどに通い続けました。その中で、支援する側、される側ではなく、新潟で生活する女性同士で、ごく普通の日常的なおしゃべりができる場がほしいという母親たちと、アルザにいがたに飛び込み作ったのがこの会です。

■「わいわい夢工房」の活動内容を教えてください。

避難者の方々と出会った2011年の秋から月日が経つにつれ、それぞれの状況も変わり、現在は活動内容に応じてその時できる人ができることで参加、協力するという流動的な活動をしています。この数年は新潟市男女共同参画市民団体協働事業の委託を受けて、年に3回「防災カフェ in いがた」を行っています。その他にアルザフォーラムでワークショップを行ったり、避難者の友人を囲んでの茶話会を開いたりしています。イベントでは、防災・減災を特別なことではなく、年齢や性別にかかわらず、日々の生活の中で自分にできることを考え、やってもらうように働きかけています。楽しみながら「自助・共助」の意識を持つきっかけをつくることを中心に活動しています。

■防災にかかわる女性を増やすために

防災について何もわからず何もできなかったからこそ、自分が知りたいこと、やってみたいことをどうしたらできるか周りに相談していくうちに、いろいろな声が集まるようになってきました。普段の生活の中で防災・減災をほんの少し意識すると、自分にできることが見つけられていくと思います。この数年、地域の防災担当や地域の茶の間の方、子育て世代及びシニア世代のご夫婦での参加が多くなってきたことは、明るい兆しと思われます。特に親子向けの講座では、子どもたちがリーダーとなり、おとなを仕切っている様子を見て、微笑ましいと同時に頼もしく感じました。この子たちが中学生になれば、自分の身を守り、周りを助ける「地域防災」の要となり、成人してそれぞれの地域で暮らすようになれば、社会全体も変わるはずという希望を持って、人を巻き込みながら自分にできることをやり続けていこうと思います。

新潟市での取組をご紹介します

◆新潟市危機管理防災局防災課「やろてば！防災女子カフェ」

新潟市では、地域の防災活動に女性の視点を増やすことを目的に、2018年度から「やろてば！防災女子カフェ」を開催してきました。講座企画には、防災士、運動普及推進委員、市内大学のボランティアサークルなど、様々な分野で活動する女性に参加していただき、協働で講座を実施しています。女性ならではの視点で、災害時の困りごとや対応策を話し合い、アイデアを共有したことで、これから防災活動に取り組んでいくためのヒントをつかんでもらうことができました。今後も、女性が防災活動に参加しやすい体制づくりを促進するため、女性の声を取り入れた防災講座を企画していきたいと思っています。



女性の視点で
避難所運営の
役割分担について
話し合いました。

◆新潟市防災士の会「NBJ（新潟防災女子）」

防災士資格を持つ市民有志で結成された新潟市防災士の会では、2019年度に女性部会「NBJ（新潟防災女子）」の活動が始まりました。防災活動を行う上での課題や悩み、成果などを共有し、地域の枠を超えた女性防災士の横のつながりを深めています。防災関連の企業の方を講師に迎えた研修会、避難所の開設訓練、啓発情報紙の作成など、その活動内容は多岐にわたります。活動企画から運営までを女性防災士が主体的に担っており、活気あふれる活動が広がっています。



各会員が各地域の
防災活動について発表し、
情報交換を行いました。



防災関連の企業の方から
パーティーや段ボールベッドの
防災グッズを紹介してもらいました。

なぜ防災に男女共同参画の視点が必要なのでしょう

災害はいつどこで起きるかわかりません。大規模災害が起きると、避難生活が始まります。これまでの災害においては、様々な意思決定過程への女性の参画が十分に確保されず、女性と男性のニーズの違いなどが配慮されないといった課題が生じました。避難所では、必要な支援が届かなかったり、不快な思いをしたり、思わぬ被害に遭うことさえ起こります。集団生活となる避難所は、さまざまな視点、立場を大切にすることが求められます。

避難所では・・・

物資の不足・配付方法、生活環境（プライバシー・衛生）、安全の問題など、様々な人が集まる避難所ではいろいろな問題が起こり得ます。

下着・生理用品がない
(もらいにくい)

介護用品がない

洋式トイレがない

離乳食がない
アレルギー対応食がない

授乳室
オムツ(替えスペース)がない

間仕切りや
更衣室がない

仕事に行かなければならないのに
子どもを預ける先がない

遊ぶ場所がない
勉強場所がない

(参考：熊本市男女共同参画センターはあもにい発行
「熊本地震を経験した私たちが提案する 男女共同参画の視点に立った防災ポイントBOOK」)

日ごろから男女の違いに配慮し備えよう

2004年の新潟県中越地震、2007年の新潟県中越沖地震、2011年の東日本大震災、2016年の熊本地震などの大きな災害での経験を教訓に、男女のニーズの違いや多様な生活者に配慮した防災という考え方が取り入れられるようになりました。内閣府男女共同参画局では、自治体が女性の視点からの災害対応を進める際の参考として「男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン」を2020年5月に作成しています。新潟市でも、避難所の運営をはじめ、防災に係る計画やマニュアルの策定など、あらゆる防災施策において女性の視点に配慮するよう取り組みを進めています。平常時から男女共同参画の視点を取り入れた防災体制の整備を進めることが大切です。

これからの地域防災のために

女性の視点を取り入れた防災体制を確立するためには、意思決定の場に女性が参画することが必要不可欠です。

地域の防災活動に女性が参画することは、多様な視点が反映され、地域防災力の向上につながります。災害に強い地域をつくるために、それぞれの地域の防災体制について改めて考えてみませんか。